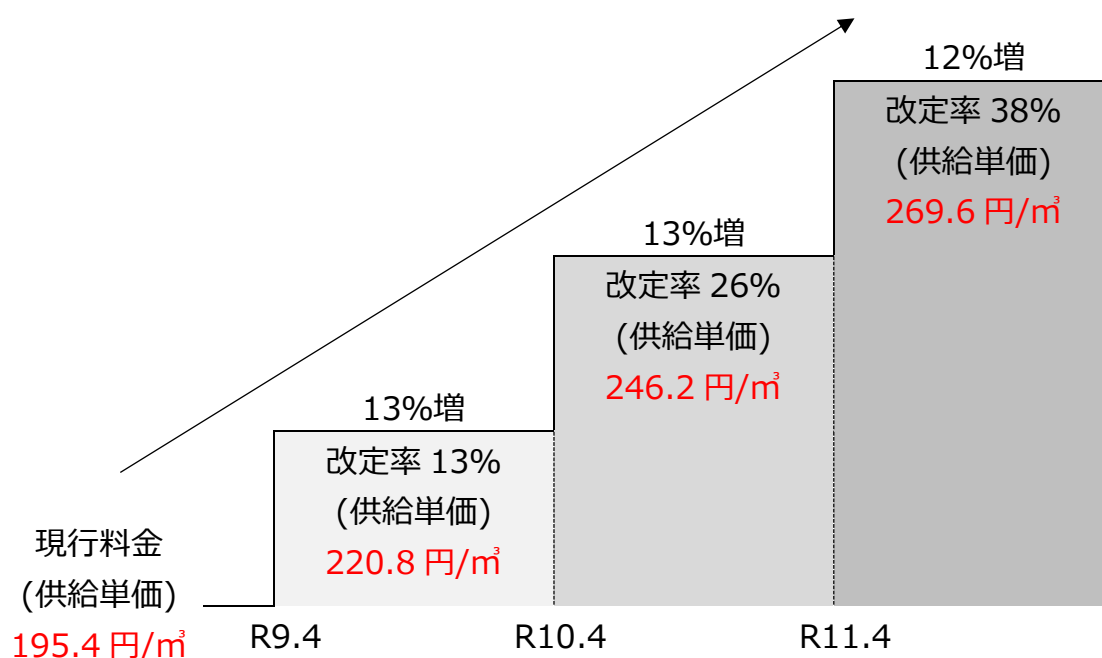


1. 段階的な料金改定の試算について

前回審議会でご意見のあった段階的な料金改定について、以下のとおり試算しました。

(1) 試算条件

- ・ 料金改定初年度を令和9年度とし、毎年4月に改定する。
- ・ 最終的な料金改定率を38%増とし、年12~13%を3回に分けて改定し、令和11年4月に完了する。



- ・ 建設改良費の追加投資については、前回審議会では経営目標※を設定した際に提示した将来シミュレーション（第2回審議会・資料⑥19ページ）と同条件とする。

※ 経営目標・・・「料金算定期間の最終年度（R13）に16億円程度の保有資金」
38%の増改定 + 年2億円の追加投資（うち年1億円の企業債借入）

(2) 試算結果

■ 当期純利益（純損失）

① 令和 9 年度に 38%改定した場合（第 2 回審議会・資料⑥19 ページ上段表と同じ）

決算	新料金										単位：千円
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
料金収入	1,133,128	1,128,055	1,091,753	1,053,105	1,437,674	1,393,794	1,336,130	1,309,659	1,268,942	1,203,481	1,172,779
当期純利益(△損失)	138,251	6,850	△24,782	△106,292	248,445	196,602	135,130	99,755	53,498	△21,463	△56,024



② 段階的に改定した場合

決算	第1改定 第2改定 第3改定 +13% +13% +12%										単位：千円
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
料金収入	1,133,128	1,128,055	1,091,753	1,053,105	1,177,442	1,272,820	1,336,130	1,309,659	1,268,942	1,203,481	1,172,779
当期純利益(△損失)	138,251	6,850	△24,782	△106,292	△11,787	75,628	135,130	99,755	53,498	△21,463	△56,024

段階的に改定すると収益の上がるタイミングが後ろ倒しとなり、令和 9 年度も赤字見込みとなります。

■ 資金残高予測

① 令和 9 年度に 38%改定した場合（第 2 回審議会・資料⑥19 ページ下段表と同じ）

決算										単位：千円	
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
当期純利益(△損失)	138,251	6,850	△24,782	△106,292	248,445	196,602	135,130	99,755	53,498	△21,463	△56,024
資本的収支不足額	△625,489	△578,348	△653,921	△644,989	△690,215	△628,331	△598,384	△583,219	△579,641	△589,358	△568,811
補填財源	625,489	578,348	653,921	644,989	690,215	628,331	598,384	583,219	579,641	589,358	568,811
損益勘定留保資金	462,068	468,801	473,060	470,671	462,845	467,646	464,010	466,966	469,248	472,833	462,421
その他	62,562	85,513	106,389	88,208	106,389	106,389	106,389	106,389	106,389	106,389	106,389
利益剰余金処分額	100,859	24,034	74,473	86,111	120,981	54,296	27,985	9,864	4,004	10,136	－
補填財源不足額	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
期末資金残高	1,341,478	1,324,294	1,225,040	1,032,638	1,160,102	1,302,409	1,409,554	1,499,445	1,548,940	1,517,341	1,461,318

当期純利益の場合）期末資金残高 = 前年度残高 + 当期純利益 - 利益剰余金処分額

当期純損失の場合）期末資金残高 = 前年度残高 - 利益剰余金処分額（当期純損失を含む）+ 補填財源不足額



② 段階的に改定した場合

決算	第1改定 第2改定 第3改定 +13% +13% +12%										単位：千円
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
当期純利益(△損失)	138,251	6,850	△24,782	△106,292	△11,787	75,628	135,130	99,755	53,498	△21,463	△56,024
資本的収支不足額	△625,489	△578,348	△653,921	△644,989	△690,215	△628,331	△598,384	△583,219	△579,641	△589,358	△568,811
補填財源	625,489	578,348	653,921	644,989	690,215	628,331	598,384	583,219	579,641	589,358	568,811
損益勘定留保資金	462,068	468,801	473,060	470,671	462,845	467,646	464,010	466,966	469,248	472,833	462,421
その他	62,562	85,513	106,389	88,208	106,389	106,389	106,389	106,389	106,389	106,389	106,389
利益剰余金処分額	100,859	24,034	74,473	86,111	120,981	54,296	27,985	9,864	4,004	10,136	—
補填財源不足額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
期末資金残高	1,341,478	1,324,294	1,225,040	1,032,638	899,870	921,202	1,028,347	1,118,239	1,167,733	1,136,135	1,080,111

当期純利益の場合）期末資金残高 = 前年度残高 + 当期純利益 - 利益剰余金処分額

当期純損失の場合）期末資金残高 = 前年度残高 - 利益剰余金処分額（当期純損失を含む）+ 補填財源不足額

段階的な改定により、令和9年度及び令和10年度の2カ年において、38%改定との収益ギャップ 381,206 千円が生じ、料金算定期間最終年度（R13）の資金残高が 11.6 億円となり、経営目標を満たしません。

（3）段階的改定に伴う改定ギャップの解消策

改定ギャップ 381,207 千円を料金算定期間内（5 年間）で解消するには、最終改定率を 48% に引き上げる必要があります。

令和9年度 改定率 16%（供給単価 226.7 円/m³）

令和10年度 " 32%（ " 257.9 円/m³）

令和11年度 " 48%（ " 289.2 円/m³）

■ 当期純利益（純損失）

	決算				第1改定 +16%	第2改定 +16%	第3改定 +16%					単位：千円
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	
料金収入	1,133,128	1,128,055	1,091,753	1,053,105	1,208,905	1,333,307	1,433,267	1,404,871	1,361,195	1,290,974	1,258,040	
当期純利益(△損失)	138,251	6,850	△24,782	△106,292	19,676	136,115	232,267	194,968	145,751	66,031	29,237	

■ 資金残高予測

	決算				第1改定 +16%	第2改定 +16%	第3改定 +16%					単位：千円
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	
当期純利益(△損失)	138,251	6,850	△24,782	△106,292	19,676	136,115	232,267	194,968	145,751	66,031	29,237	
資本的収支不足額	△625,489	△578,348	△653,921	△644,989	△690,215	△628,331	△598,384	△583,219	△579,641	△589,358	△568,811	
補填財源	625,489	578,348	653,921	644,989	690,215	628,331	598,384	583,219	579,641	589,358	568,811	
損益勘定留保資金	462,068	468,801	473,060	470,671	462,845	467,646	464,010	466,966	469,248	472,833	462,421	
その他	62,562	85,513	106,389	88,208	106,389	106,389	106,389	106,389	106,389	106,389	106,389	
利益剰余金処分額	100,859	24,034	74,473	86,111	120,981	54,296	27,985	9,864	4,004	10,136	－	
補填財源不足額	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
期末資金残高	1,341,478	1,324,294	1,225,040	1,032,638	931,333	1,013,152	1,217,434	1,402,538	1,544,285	1,600,180	1,629,418	

当期純利益の場合）期末資金残高 = 前年度残高 + 当期純利益 - 利益剰余金処分額

当期純損失の場合）期末資金残高 = 前年度残高 - 利益剰余金処分額（当期純損失を含む） + 補填財源不足額

（参考）前回の料金改定における激変緩和措置について

- ・ 前回の料金改定にあたり、3 年間で 1/3 ずつ改定する激変緩和措置をとりましたが、この措置は一般会計からの繰入により財源を賄っております。
- ・ 一般会計による財源措置は、市の政策判断によるものであり、本審議会における料金改定の検討においてこれを前提とすることはできません。